

仏神宗 仏神寺 柳山神社

結婚の儀

高皇產靈大御神

天之御中主大御神

神皇產靈大御神

瓊瓊杵尊

天照大御神

柳山大山祇大山神

不動明王

大日如來

遍照金剛

[illegible]

不動明王大咒・・・・・・・・・・・・・・・・
三力の偈（さんりきのげ）・・・・・・・・
回向文（えこうぶん）・・・・・・・・・・・・
終祈念（しゅうきねん）・・・・・・・・・・・・
神前に捧げる御饌の種類・・・・・・・・
仏神宗仏神寺柳山神社由来・・・・・・・・
著作権侵害について・・・・・・・・・・・・
出版社出版日・・・・・・・・・・・・・・・・

第一節

結婚の儀

勤行

参進の儀（さんしんのぎ）

新郎新婦の控え室に、新郎新婦を迎えに行き、神殿まで先導し、歩いていく。

清祓式開場祝辞祝詞

（きよはらいしきかいじょうしゆくじのりと）

かけまくも かしこき はらひどの おおかみと たたえことを へまつる
 せおりつひめのかみ はやあきつひめのかみ いぶきどぬしのかみ
 はやさすらひめのかみ よはしらを はじめまつりて
 あまつかみ やおよろずくにかみ やおよろずこれの はらひわざを
 たいらけく やすらけく きこしめせと かしこみ かしこみも まをす。

修祓の儀（しゅばつのぎ）

祓い串で、二人を祓い、会場全体を祓う。

献饌の儀（けんせんのぎ）

結婚式を挙げる前に、神前に、ご報告の前に、御饌を捧げる。

▲記号が表示されていたら、光明真言を三遍復唱する事

かいしきねん

開始祈念

※別紙 記載あり

先ずは神様をお呼びする。

降神の儀（こうしんのぎ）

三拝 九拍手

※三拝九拍手（祈念）一拝は、最高神、天之御中主大御神様に捧げる最も良い数である、九は最高の数であるがゆえに、最高神を呼ぶのに最も良い数、九回の拍手打つ。

本当の御名前は、ミナカヌシ様ですが、アメノ、アマノは、総称です。

アメノミナカヌシオオミカミ、アマノミナカヌシオオミカミと呼ばれているが、どちらも正解の呼称であります。
アマノミナカヌシオオミカミと唱えても、ミナカヌシと唱えても効果あり。

あまのみなかぬしおおみかみ

あまのみなかぬしおおみかみ

あまのみなかぬしおおみかみ

とゆつくり三回唱え、

み	み	み
な	な	な
か	か	か
ぬ	ぬ	ぬ
し	し	し

とゆっくり三回唱えて、唱えた後に、

○オーと、一息でゆっくり唱える。

○オーと、一息でゆっくり唱える。

○オーと、一息でゆっくり唱える。

一 拝

降神の儀（こうしんのぎ）

二拝 二拍手

この地^ちを管理^{かんり}する、

うぶすなのおおみかみ
うぶすなのおおみかみ
うぶすなのおおみかみ
とゆつくり三回唱え、唱えた後に、

○オー
○オー
○オー

一
拝

大元造化三神報恩之祝詞『現代語訳』（だいげんぞうかさんじんほうおんののりと「げんだいごやく」）

言葉に掛けて、申し上げるのも、恐れ多い、天地根源の神様で在らせられる、天之御中主の大御神、高皇産靈の大御神、神皇産靈の大御神達の、不思議で絶妙な、御恩恵によって、この世に生まれ出てきた、我々の、身の上ならば、その御恩恵に、報い奉ろうとして、御称え、申し上げますには、いよいよ高く、底知れぬ、天上界の、幽界を、主宰され、始めもなく、終わりもなく、盤石に、永遠に、御鎮まりになられて、目には見えない、根源のエネルギーは、百種類に近い、神のエネルギーを、生じ給い、目に見えるものは、昼の世界、夜の世界を、主宰され、またこの地球にあっては、現代を、生きる人を始め、呼吸をする生き物も、呼吸をしない物も、この世に、ありとあらゆるものの限りを、生み出し給い、支配され、御守り下さり、幸をお与え下さる、ご功績の、偉大で、悠久で、広くて、厚い、大きな愛情を、蒙って、この現世に、生きている限りは、大御神様達の、元となる、御心そのままに、この真心を尽くさせて、頂いて、怠慢にならず、尊敬し、畏怖の気持ちで、お仕える様子を、御心も穏やかに、お聞き下さいまして、全世界の人々を、天地の神理に違わせず、開けた世の中に、後れることなく、さまざまな災難が無く、つつがなく、存在させて下さり、夜も、昼も、昼夜分けず、御守り、御恵み下さり、幸をお授け下さい、と、大空を、遙かに、拝ませて、頂きます、と、申し上げます。

大元造化三神報恩之祝詞（だいげんぞうかさんじんほうおんののりと）

※この祝詞は神前でも唱え、無形の空を仰ぎ奏上する祝詞です。

かけまくも いとも かしこき あめつちの もとつかみ

あまのみなかぬしのおおみかみ たかみむすびのおおみかみ

かむみむすびのおおみかみたちの くすしく たえなる

みたまの ふゆによりて この うつしよに あれいでたる みにし あれば

そのもとつ みめぐみに むくい たてまつらむとして

ただへごとを へまつらくは いやたかく そこひなき

たかまのはらの かくりよを しめ たまひ

はじめもなく おわりもなく ときはに かきはに しづまり まし まして

めにみえぬ もとつけは ももたらず やその かみけを なし たまひ

めにみゆるものは ひのみくに つきのみに ほしのみくに

またこれの おおつちに ありては

うつしき あおびとくさを はじめ いきあるも いきなきも よにありとし
あるものの かぎりを うむしいで うしはき まもり さきはえ たまえる
みいさおの おおき ひさしき ひろき あつき おおむ いくしみを
かがふりて このうつしよに あらむ かぎりは

おおみかみたちの もとつ みこころの まに まにに

この ころを つくして うむことなく

この みを つとめて おこたる ことなく

うやまひ かしこみも つかえまつる さまを たひらけく やすらけく

きこしめして よよのくにの あおびとくさをして

あめつちの かみわぎに たがは しめず ひらけ よにおくれ しめず
くさぐさの わざわいなく つつがなく あらしめ たまえ

よのまもり ひのまもりに まもり めぐみ さきはえ たまえと

みぞら はるかに おろがみ まつらくと もおす。

産土神祓祝詞

(うぶすなのかみのはらいのりと)

かけまくも いとも かしこき あめつちの もとつかみ

あまのみなかぬしのおおみかみ たかみむすびのおおみかみ

かむみむすびのおおみかみ

かけまくも かしこき あまてらす おおみかみ うぶすなのおおかみ

ちんじゅのおおかみを はじめ

いとも ありがたき わがしゅごの ごそんざい たちの

おおまえを おろがみ まつりて かしこみ かしこみも まをさく

おおかみさま ぶっそん たちの

たかき とうとき こうみようを いつも いただき

ひろき あつき みたまのふゆと ごぶつとくを

うみの この いや つぎつぎに たまわり めぐみ たまひ

われは てんちしぜんの どおりにしたがい おかげさまの ところを もちて

われの じんせいを たいせつにして われとかぞくを ねぎらい

はげましかんしゃして ところに えいようを あたえ

なりわいに はげみ てんしよくに ならしめ たまひ

わが いちれいしこんと ところが いやますますに

せいちょうし ようじょうし ところがけ みすこやかに

よろづの ねがうこと かなえ たまひ

うぶすなの しんぶつは ゆうけん ちようわの しんぶつにて

うつしよを さりぬ のちは たかき れいかいに はいらしめ たまひ

じょうどへと みちびき たまひ

うつしよも かくりよも たのしみ よろびの かわる ことなく

みこころも なごやかに きこしめして まもり めぐみ さきはへ たまひ

いへかど たくく いやたかに いやひろに さかえしめ たまふ ことを

いんよう ちようわ された うつくしき だいしぜんの ちきゅう じんるいの

へいわ はってんの ために つくさしめ たまひ

もろもろの まがごと つみ けがれを

はらひ たまひ きよめ たまふと もおす ことの よしを

あまつかみ くにつかみ やおよろづの かみたたちと ともに

きこしめせと かしこみ かしこみも まをす

天津祝詞（あまつのりと）

たかまのはらに かむづまります

かむろぎ かむろみの みこと もちて

すめみ おやかむ いざなぎの みこと

つくしの ひむかの たちばなの おどの

あわぎはらに みそぎ はらひ たまふ ときに

あれませる はらへどの にじゅうろくしんの おおかみたち

もろもろの まがごと つみ けがれを

はらひ たまひ きよめ たまふと もおす ことの よしを

あまつかみ くにつかみ やおよろずの かみたちと ともに

あまの ふちごまの みみ ふりたてて

きこしめせと かしこみ かしこみ もおす。

結婚祝詞

(けっこんのりと)

かけまくも いとも かしこき あめつちの もとつかみ

あまのみなかぬしのおおみかみ たかみむすびのおおみかみ

かむみむすびのおおみかみ あまてらす おおみかみ

うぶすなのおおみかみ やなぎやまおおやますみおおやまがみ

だいにちによらい ふどうみようおうたちの ごぜんにて

こんぎの せいし そうじょうを いたします

しんこんの ふたりが ともに しらがの はえゆく としまで

ふうふかんの こうふくが まし ともに あらそいごとが

おきても おおみかみの きせきの めぐみにより かいけつし

ともに しあわせで ありますように

はらひ たまひ きよめ たまふと もおす ことの よしを

あまつかみ くにつかみ やおよろずのかみたちと ともに

きこしめせと かしこみ かしこみ もおす。

結婚祝詞（けっこんのりと）

か かしこ 畏き やなぎやましんしゃ おおまえ
 掛けまくも 柳山神社の大前に、

（斎主〓祝い主 夫氏名）（斎主〓祝い主 妻氏名）恐み恐みも白さく かしこ かしこ もう

やそかび あ きよう 八十日日は有れども 今日を生日の足日と いくひ たるひ えらびさだめ 選定めて、

【仲人がいる場合】 ○○○○の媒妁に依り、 なかだち よ

【いない場合】 住所○○○○に住める（親の名）○○○○の息子○○○○と、 じゅうしよ す じゅうしよ す むすこ おおまえ

住所○○○○に住める（親の名）○○○○の娘の○○○○と、大前にして、 じゅうしよ す じゅうしよ す むすめ おおまえ

婚嫁の礼、執行はむとす、是を以ちて、大御神等の、高き、大御稜威を、 とつぎ いやわざ とりおこな これ も おおみかみたち たか おおみいつ

尊奉り仰ぎ奉りて、親族家族等、参来集ひ、列並みて、大前に御食御酒、 とうとびまつ あお まつ うからやかたち まいきつど つらなら おおまえ みけみき

海川山野の種種の物を、献奉りて、称辞竟奉らくは、天地の、初の時に、 うみかわやまね くさぐさ もの ささげまつり たたえごとおえまつ あめつち はじめ とき

六柱の御祖の、大神等、一柱の、如来、一柱の明王、創給ひ、定給へる、神随 ろくはしら みおや おおかみたち いちはしら いちはしら みようおう はじめたま さだめたま かむながら

なる道の、任に、大御酒を、嚴の平瓮に、盛高成して、大御蔭を、

いなだきまつ

ちよよ

よろづよ

さかずき

とりかわ

なが

ちぎり

むすびかた

いま

のち

戴奉り、千代、万代の盃、取交し、永き契を、結固めて、今より後、

あめ

つきひ

あいなら

こと

ごと

つち

やまかわ

あいむか

こと

ごと

たがい

天なる、月日の相並く事の如く、地なる、山川の、相對へる事の如く、互に、

こころ

むす

ちから

あ

あいたす

あいあなな

うち

おや

おしえ

まも

心を結び、力を合わせて、相助け、相輔ひ、内には、父祖の、教を守り、

と

くに

みのり

したが

み

おさ

いえ

ととの

つとめ

いそし

はげ

外には、国家の、御法に、遵ひ、身を修め、家を斉へ、家業に、勤み、励み、

うみのこ

やしな

そだ

かきわ

ときわ

かわ

ことな

うつ

ことな

子孫を、養ひ、育てて、堅磐に、常磐に、変る事無く、移ろふ事無く、

かむなら

ならいまつ

せいしごと

もう

たい

やす

きこしめ

ゆくすえ

神習ひに、習奉らむと、誓詞事、白さくを、平らけく、安らけく、聞食して、行末、

なが

ふたり

うえ

たまちば

ま

たかさこ

おのえ

まつ

あいおい

たちなら

長く、二人が、上に靈幸ひ坐して、高砂の、尾上の、松の、相生に、立並びつつ、

たまつばき

やちよ

か

いえかどひろ

かめいだか

いよよたちさか

たま

玉椿、八千代を掛けて、家門広く、家名高く、弥立栄えしめ給へと、

かしこ

かしこ

もう

恐み恐みも 白す